

議事録

平成19年度 第52回 教育研究審議会議事要録

日 時 平成19年5月22日（火） 13:30～15:30

場 所 北方キャンパス本館 E701会議室

出席者 <委員> 矢田学長、国武副学長、晴山副学長、羽田野事務局長、板谷外国語学部長、
迎経済学部長、赤塚文学部長、三宅法学部長、松藤国際環境工学部長、谷村社会
システム研究科長、柳井学生部長、中野教務部長、棚次学術情報総合センター長、
伊野入試センター長、漆原基盤教育センター副センター長、吉塚地域貢献室副室
長、前田評価室副室長

配布資料

- 1-1 教員採用申請書（基盤教育センター）
- 1-2 教員採用申請書（基盤教育センター）
- 1-3 比較政策論担当教員選考委員会名簿修正案（法学部）
- 2-1 北九州市立大学に関する評価制度の概要
- 2-2 大学評価スケジュール
- 2-3 自己点検・評価報告書における4段階評価に関する考え方
- 2-4 平成18年度計画に係る自己点検・評価報告書（案）
- 3-1 北九州市立大学大学院社会システム研究科博士前期課程の設置について
- 3-2 国際環境工学研究科新専攻の設置及び国際環境工学部学科の再編について（案）
- 3-3-1 学群設置に係る経過
- 3-3-2 昼夜開講制の見直し及び地域創生学群の設置について
- 3-3-3 北九州市立大学地域創生学群設置構想（案）
- 3-3-4 北九州市立大学平成21年度学部・学群再編に係る定員変更（案）
- 4 「日英高等教育協力プログラム・高等教育における地域貢献プロジェクト」への参加について
- 5 大韓民国仁川大学校及び仁川発展研究院への学長訪問について
- 6 北九州4大学連携による「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」企画提案の提出について
- 7 平成20年度北九州市立大学試験スケジュール（案）
- 8 北九州市立大学広報スケジュール

（冒頭、第51回教育研究審議会議事録（案）について確認）

第1号 教員の採用等について

- * 資料1-1のとおり、4月採用人事について、基盤教育センターからの申請に基づき、異文化言語（英語）教育を担当する専任教員1名の採用（一般公募）を提案。

議事録

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

（提案の承認の後、選考委員会を設置）

* 資料1-2のとおり、4月採用人事について、基盤教育センターからの申請に基づき、異文化言語（英語）教育を担当する専任教員2名の採用（学内公募）を提案。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

（提案の承認の後、選考委員会を設置）

* 資料1-3のとおり、法学部からの申請に基づき、比較政策論担当教員選考委員会の委員変更を提案。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第2号 平成18年度計画に係る自己点検・評価について

* 平成18年度計画に係る自己点検・評価について、資料2-1から資料2-4のとおり提案。

【議長】各学部等から意見をいただき、次回の教育研究審議会で審議・決定するものとしてよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

第3号 学部学科等再編について

（1）社会システム研究科の拡充及び文系修士課程の再編

* 社会システム研究科の拡充及び博士前期課程の設置について、資料3-1のとおり提案。

【議長】各学部等から意見をいただき、次回の教育研究審議会で審議・決定するものとしてよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

（2）国際環境工学研究科新専攻の設置及び同学部学科再編

* 国際環境工学研究科新専攻の設置及び同学部学科の再編について、資料3-2のとおり提案。

●再編後の5学科中4学科は名称に「環境」を冠していないが、国際環境工学部の設置理念に照らして適当なのか。

議事録

○工学を基礎に環境問題にアプローチする環境工学の考え方は設置当初と変わらない。しかしながら「環境機械」「環境建築」など独自の学問領域を表す言葉として定着しているものもあり、受験生等へのわかりやすさに配慮し、簡潔な名称とした。

【議長】各学部等から意見をいただき、次回の教育研究審議会で審議・決定するものとしてよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

（3）昼夜開講制の見直し及び学群の設置

＊ 昼夜開講制の見直し及び地域創生学群の設置について、資料3-3-1から資料3-3-4のとおり提案。

○昨年12月から文部科学省との協議を始め、内容としては大筋了承を得たが、受験生を始め関係者への説明・周知を十分に行うため、平成21年度実施とした。

○文系4学部の夜間主コースの募集を停止し、新設する地域創生学群において夜間の学生を受け入れる。

●文部科学省との協議を始める以前から各教員の意見を幅広く聴取すべきではなかったか。

○一定の素案をまとめた上で学内の合意形成を図るという判断である。詳細部分については、今後、学部等と調整していきたい。

●地域創生学群の3コースと3種類の入学者選抜方法はそれぞれ対応しているのか。

○社会人特別選抜とAO入試の合格者は、概ね地域システムコースと地域福祉コースへ、一般選抜の合格者は概ね地域ボランティアコースへ進むことを想定しているが、今後詳細に検討する。

●AO入試による入学者への長期履修制度の適用は適当か。長期履修制度に一定の適用条件を設けるべきである。

●高大連携プログラムを活用したAO入試とはどのようなものか。

○学群で独自に連携プログラムを用意することを考えており、現在、各学部で実施している連携プログラムを移行するものではない。

●高校側にはAO入試に肯定的でない意見もあるのではないか。

○全学部学科で導入するわけではないので、理解は得られるのではないか。

●今後、AO入試を拡大する考えはあるのか。

○高校生の安定的確保策としてのメリットはあるが、他方で、選抜過程や入学後のケアなど教員・事務でしっかりした体制がないとうまく機能しない。今後、検討すべき課題である。

●学群の設置は、今後どのような体制で進めていく考えか。

○新たに組織を設置し、各学部等と調整しながらカリキュラム編成などの準備を進めることを考えている。

【議長】各学部等から意見をいただき、資料3-3-2の内容について、次回の教育研究審議会で審議・決定するものとしてよろしいか。

【委員全員】（異議なし）

議事録

報告

- ①日英高等教育協力プログラムについて、資料4のとおり報告があった。
- ②大韓民国仁川大学校及び仁川発展研究院への学長訪問について、資料5のとおり報告があった。
- ③4大学連携事業－社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム－について、資料6のとおり報告があった。
- ④平成20年度入学試験日程について、資料7のとおり報告があった。
- ⑤平成19年度広報スケジュールについて、資料8のとおり報告があった。
- ⑥次回の審議会を6月5日（火）に開催する予定である旨、報告があった。